

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

<b>事業所名</b>	グループホーム パラディソ 神宮寺
日付	平成17年3月31日 特定非営利活動法人
<b>評価機関名</b>	高齢者と痴呆の人のケアを大切にす会 LIFE SUPPORT推進グループ
評価調査員	在宅介護経験8年
評価調査員	在宅介護経験11年
評価調査員	在宅介護経験8年
評価調査員	在宅介護経験16年
<b>自主評価結果を見る</b>	
<b>評価項目の内容を見る</b>	
<b>事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)</b>	

## 外部評価の結果

<b>講評</b>
全体を通して(特に良いと思われる点など) パラディソ(美しく幸せな場所)で認知症高齢者を「心身の状況に応じて自立した日常生活を家庭的な環境の中で共同生活を営み、快適な生活を送って頂く」ために周辺に関わる人々がどのような役割を持って支援していくかを見るグループホームである。 先ず利用者本人は「何かをして貰う」ではなく、「自分で出来る事は自分でする」ことである。自分達は、昔の経験を思い出し、今の自分で出来る能力で、自分で家事をする。散歩に出れば、自分の足で歩く、車椅子は自分の力で動かす。「自分で出来た」ことを実感し、自信を取り戻す喜びを味わって貰う。 職員は認知症ケアの既成概念にとらわれず、「利用者の持つ能力をどのように引き出すことが出来るか」、「自分でするという意欲が出せる環境を作ることが出来るか」、「利用者の気持を良く知ることが出来るか」等で支えていこうとする役割を持って、利用者が自分の仕事、自分の生活をする後押しをしていく。「職員だけで頑張らない」気持ち、色々な人の協力を得ている。そして「家族には家族としての役割をしっかりと頂く」、「地域の人の応援の中に、このホームがある」という柱をしっかりと打ち立てている。 代表やグループホームの事業に貢献したい色々な人々と共に研究や実践を踏まえながら、利用者とその家族が安心して生活出来る基盤を作っている。
特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした 家族への“たより”や“情報提供”は、今後は少しずつ考え実行していきたいとの事。このグループホームの素晴らしい日常を、ホーム内に来られた家族に止めておかず、他の家族や親戚、友人、地域の人達にも知って貰えるような、小規模で手作り、個性溢れたものに実現することを期待する。 高齢者、なかでも認知症の人との付き合いは、まだ始まったばかりと言って良い。このホームで試行している事は、グループホームの先駆けたモデルと言っても良いと思う。又職員の認知症ケアに対するあり方を問うている課題であるとも云える。認知症の介護予防という観点から、あるいは利用者の認知症の進行に伴うコミュニケーションのとり方等、貴グループホームの体制の中で、研究や研修を重ねて頂き、次の実践を是非見せて頂きたい。

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
<b>記述項目</b>	グループホームとしてめざしているものは何か 「グループホームの在り方、自分達が目指すべきホームの姿勢」を色々な関係者の協力を得て、研修に研修を重ね、ホームの立ち上げから関わり続け、模索し続けてきた足跡を伺うことが出来る。 「採算は考えない。地域に貢献したい。運営は管理者、職員に任せて口を出さない」と言う代表者の理念を受けて、「今の利用者の落ち着いた生活を確保したいので、部屋に空きがあっても、すぐに新しい人を入居させることをしない」、「玄関は施錠しない。犬のセンサーも必要な時だけ」、「場所違いの混乱がない時は、目印は敢えてつけない」という発想の原点がある。利用者の心情を信じ、自分の能力の維持の為の支援をし、利用者同志が自分達の力で助け合っているグループホームを目指している。		

### 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
<b>記述項目</b>	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 街中の住宅密集地で狭い敷地の為、菜園や花壇など広い屋外空間は望めない。少ない空間を利用してウッドデッキや2階のベランダが外の空間であり、洗濯干場になっている。その代わり、1、2階の人達で、天気の良い日は、必ず近くの公園まで散歩をする。利用者の交流と生活リハビリとなっている。 室内は木・障子・ふすま・畳等和風の素材がふんだんに使われ、昔から親しんだ建物で落ち着いた生活が出来る。居室は畳の部屋とフローリングの部屋があり、部屋のデザインも異なる上に、思い思いの家具や飾り物を持ち込んで、各人の思いの部屋にしている。トイレと洗面台が各居室にあるのも嬉しい。リビングルームは落ち着きのある空間で、以前の住人の灯籠が残されたり、その横に神様も祀られており、殆んどの人がリビングルームに落ち着いて過ごしている。		

### ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
<b>記述項目</b>	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 「無理のない状況の中で、利用者が本人の意志で出来る限り動いて貰えるように」、「声掛けは答え易い問いかけで、利用者自らの考えや動きを引き出すように」、ゆっくり時間をかけて待つようにしている。「何をしようか?」「飲み物にする?」「何を飲む?」「誰が入れる?」等と問いかけ、それに答えて利用者が自ら動いている。その結果がどんなものでも、職員が褒めたり、感謝の言葉を言ったりしている。利用者はできる喜びを感じ、活き活きと暮らせることにつながるのだと思う。 「本来精神科に入院しているべきでない」と管理者自ら面接して受け入れた一人の利用者。しばらくの間はこのホームでの暮らしは大変だったと言うが、家族もびっくりする程の変わりようだと言う。入居前は薬漬けだった人も入居と同時に薬も止めて、その人らしい生活に変化していくのが嬉しいと職員は話す。		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
<b>記述項目</b>	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か、 「一人ひとりの利用者は、とても大事に思っている。私としてはこの事と同じ位職員も大切」と管理者は力説する。そして「利用者にとって家族は最も大切」ということから家族とグループホームとが力を合わせてケアしていくことが重要と考えている。 サービスの質の向上を願う時は、「介護は何にも増して“人”そのもの」、「職員を如何に育てるか」、「このホームに相応しい介護観を持って貰うのには、どうしたら良いか」等管理者、職員で常に研修を重ねている。そして、高齢者ケアの向上と地域貢献を目指すために、スーパーバイザー役の大学の先生、運営の責任者、認知症ケアに理解ある建築家や地域の医師、そして地域の住民で、がっちりスクラムを組んで支援している。		